

本邦産ハムシ科覺書(第四)

Lema diversa と *L. Lewisii*

湯 淺 啓 溫

NOTES ON THE CHRYSOMELIDAE IN NIPPON (IV).

ON *LEMA DIVERSA* AND *L. LEWISII*.

By HIROHARU YUASA.

私は従來 *Lema Lewisii* BALY (ルキスクビボソハムシ) は採集もし、飼育もしたことがあるけれども、*L. diversa* BALY (アカクビボソハムシ) は未だ嘗て手にしたことがなかつた。ところが一昨年門司税關植物検査課の森信義氏から *Lewisii* の標本と共に *diversa* と同定すべき標本をも送られ、且之等兩者の交尾をも觀察された旨附記してあつた。よつて、所藏標本をも精査した結果、*diversa* と *Lewisii* とは同一種に属すべきものであるとの結論に達した。次にその顛末を述べると共に、2 新型の記載を試みようと思ふ。本文に入るに先立つて、この小文起稿の機縁を與へられた森信義氏に厚くお禮を申上げる。

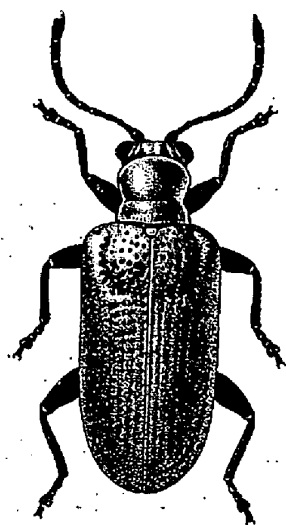
diversa と *Lewisii* とは何れも 1873 年に BALY に依つて同一論文に記載されてゐる (1) が、その記載を詳細に比較して見ると兩者の相違の主なるものは次の如くである。

	<i>diversa</i>	<i>Lewisii</i>
色 彩	vertic scutelloque piceis, thorace elytrisque piceo- fulvis.	vertice obscure rufo, thorace elytrorumque apice rufo-testaceis, elytris caeruleo-nigris.
前 胸	disco impunctato.	sub lente minute punctato, medio stria longitudinali punctorum magis distinctorum impresso.

色彩の相違ははつきりしてゐる。しかし、前胸背板の點刻の有無は、記載の如くんば、表現の相違とも見られる程度の差である。結局、最も大きな違ひは前胸背板の中央にある點刻縦列の存否である。之は BALY 自身から解説してゐる(1)。

“on the middle of the disk is a longitudinal line,
formed by a double row of fine punctures;”

典型的な *Lewisii* と同定すべき 15 頭の所蔵標本を検しても、この點刻列の發達の程度は區々で、中にはやはり全然存在しないと見るべきものもある。即ち、



第 1 圖

Lema diversa BALY *Lewisii* とが同一種たることの 1 證左たり得る。

前胸背板中央の點刻縦列は個體による變異が著しく、*Lewisii* と *diversa* はその發達の兩極端の標本に依つて記載されたものと信ぜられ(ここでもう一度兩者に於ける前胸背板上の點刻の有無といふ差異を思ひ合はすべきである)、かやうなものは到底種的標徴たり得ない¹⁾と考へるのである。

なほ、*Lewisii* は森氏も私もツユクサで飼育し、*diversa* も森氏に據ればやはりツユクサを食するといふ。又森氏が *Lewisii* の ♀ と *diversa* の ♂ との交尾してゐるのを見られたことは既に言及した通りである。是等の事實も、私の *diversa* の同定にして誤りなくば、之と

而して、*diversa* と *Lewisii* とを同一種として取扱ふとすれば、兩者は同一論文中に記載されてゐるから、頁の前後に依つて *diversa* が先取される。而も、*Lewisii* は *diversa* とは判然色彩を異にしてゐるから、前者は後者の變種としてでも取扱つて區別したらよいかと思ふ。¹⁾

ところで、*diversa* の變種としては曩に桑山博士の記載された *doi* (クロスヂクビボンハムシ) なるものがある(4)(第 2 圖 b)。之を *Lewisii* の變種とせずして *diversa* の變種とされたことは非常な卓見だと信ずるものであるが、考へて

1) 原種 *diversa* は現在京都以西の本州並に朝鮮・支那から知られ、變種 *Lewisii* 及び *doi* は原種よりもつと以東までの本州並に四國・九州に産して分布をやや異にすると思はれるので翅鞘上の斑紋の有無に依つて先づ二つの亞種 *diversa* と *Lewisii* とに對立分離せしめ、更に亞種 *Lewisii* を斑紋の相違に依つて小分けした方がよいかも考へてゐるが、分布がもつとよく判るまですべて對等の變種として取扱つておくことにする。

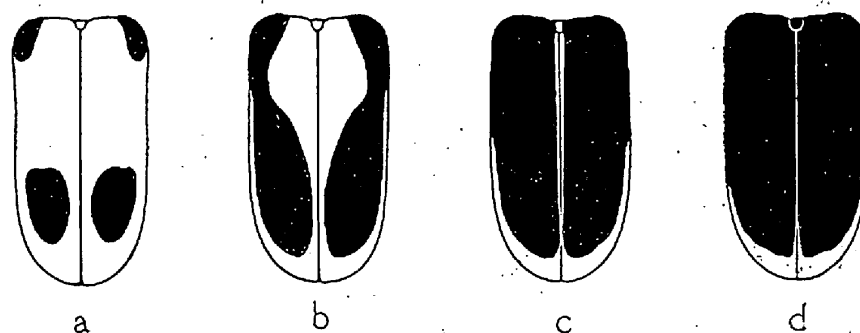
見ればこの時既に *diversa* と *Lewisii* の區別撤廢の第1歩が踏出されてゐた譯だつたのである。

以上の2變種のほか、私は之等の變種の夫々各1新型と考へる標本を所持してゐるので、それらの記載を次にしておく。

Lema diversa BALY var. *doi* KUWAYAMA f. *morii* doi nov.²⁾

變種 *doi* と異なる點は左右の翅鞘上に各2個、肩部と中央後方とに黒色の斑紋を有することである。(第2圖a)(この斑紋の癒合したものが變種 *doi* である。)

模式標本——1頭、東京駒場、11. VI. 1925(著者採集); 1頭、東京志村、3. VII. 1934(著者採集)。



第2圖 *Lema diversa* BALY の翅鞘斑紋の變異

a. var. *doi* b. *morii* YUASA, b. var. *doi* KUWAYAMA,
c. var. *Lewisii* b. *akaheri* YUASA, d. var. *Lewisii* (BALY).

因に、加藤正世氏の分類原色日本昆蟲圖鑑, IX, 1933, pl. 11, f. 11 に出てゐるアトモンクピナガハムシ(假稱) *Lema* sp. (本州) は恐らく本型であらう。

Lema diversa BALY var. *Lewisii* (BALY) f. *akaheri* nov.

變種 *Lewisii* と異なる點は翅鞘會合線に沿うて多少とも橙赤色の部分を残し、且翅鞘外方の橙赤色部も前方に餘計に伸びてゐることである。(第2圖c)(之は變種 *Lewisii* の藍黒色紋の發達の鈍いものである。)

模式標本——1頭、東京駒場、22. V. 1924(著者採集); 3頭、同所、4. VI. 1925(著者採集); 1頭、同所、11. VI. 1925(著者採集)。

2) この新型を森信義氏に捧げる。

以上の變種及び新型に於ける翅鞘斑紋の變化は次の如く *f. morii* から var. *Lewisii* へと直線的進行の痕を示してゐる。

f. morii → var. *doi* → *f. akaheri* → var. *Lewisii*

最後に綜括として學名異名表を掲げると次の通り。

lema diversa BALY (Fig. 1.)

Trans. Ent. Soc. Lond., 1873, p. 71.

var. *Lewisii* (BALY), n. comb. (Fig. 2, d),

Trans. Ent. Soc. Lond., 1873, p. 72.

f. akaheri YUASA, n. f. (Fig. 2, c)

var. *doi* KUWAYAMA (Fig. 2, b).

J. Fac. Agr., Hokkaido Imp. Univ., XXXIII (1), 1932, p. 78,

f. III.

f. morii YUASA, n.f. (Fig. 2, a)

?=*Lema* sp. KATO, Three Colour Ill. Ins. Jap., IX, 1933, pl.

11, f. II.

文 献

1. BALY, J. S. 1873. Catalogue of the Phytophagous Coleoptera of Japan, with descriptions of the species new to science. Trans. Ent. Soc. Lond., 1873. pp. 69~99.
2. CHŪJO, MICHIO. 1933. Studies on the Chrysomelidae in the Japanese Empire (III). Sylvia, IV, pp. 19~56, 1 fig.
3. 加藤正世. 1933. 分類原色日本昆蟲圖鑑 第九輯 鞘翅目. 東京, 厚生閣.
4. KUWAYAMA, SATORU. 1932. Studies on the Morphology and Ecology of the Rice Leafbeetle, *Lema oryzae* KUWAYAMA, with Special Reference to the Taxonomic Aspects. J. Fac. Agr., Hokkaido Imp. Univ., XXXIII (1), pp. 1~132, 13 figs., 4 pls.